

3) 地域助産婦活動

はじめに

母子にとってより安全で質の高いサービスを提供するために、地域として妊産婦を支援するに当たっての助産婦の役割について検討した。今年度は、開業助産婦に関する調査について検討したので、報告する。

調査 1. 助産所利用者への意識調査

産婦の分娩場所は昭和40年代に自宅・助産所から、病院・診療所へと移行し、平成元年現在、病院・診療所分娩は98.7%を占め、助産所・自宅分娩は1.3%にすぎなくなった。しかし、ここ10年程前から、ラマーズ法分娩の普及に伴い、助産所での出産を希望する声が徐々に高まってきている。そこでわれわれは助産所利用者の状況について、主に利用者のニーズ等の意識面について調査したので、その内容について報告する。

1. 調査対象および方法

調査対象は、昭和59年6月～平成元年6月の5年間に、大阪府下の分娩を取り扱う助産所39施設において分娩した母親1802名であった。方法は、郵送によるアンケート調査を実施した。調査項目は、助産所を知った動機、助産所出産を希望した理由、助産所出産の満足度、助産所に対する希望等の項目である。

2. 結果

1) 回収率

回収数1221名、回収率は67.7%であった。

(表1)

2) 初産・経産別

初経産別についてみると、図1のように経産婦が870名(71.2%)と7割を占めていた。

3) 助産所を知った動機

助産所を知った動機は図2のように、「助産所

で出産した人に聞いた」者が53.9%と過半数を占めていた。

4) 助産所出産の志望動機

助産所出産の志望動機は、表2のようであり、自然分娩、家庭的雰囲気、主体的分娩への志向等の順になっている。

5) 出産体験の満足度

出産体験の満足度については、図3のように、「大変満足」と答えた者73.6%、「満足」と答えた者23.9%で、合計97.5%の者が満足している。

6) 満足の内容

その満足の内容について上位順にみると、表3のように、1位「自然出産ができた」222名、2位「主体的分娩ができた」130名、3位「熟練したケアが受けられた」126名となっている。なお、少数ながら「やや不満足」と答えた者の理由は「異常時の不安」5名、「呼吸法の実施が困難」5名、「不衛生に思えた」3名、「母乳栄養が確立できなかった」3名、であった。

7) 出産時の感想

出産時の感想は表4のように、「安心して出産できた」106名、「夫が側にいてくれて安心」106名、「自然分娩ができてよかった」98名、「家庭的暖かさがある」79名、であった。

8) 助産婦の今後の存続希望

図4のように、今後の助産所の存続希望については「絶対に存続させてほしい」89.1%、「できれば残して欲しい」7.9%であり、合計97%とは

とんどの者が存続を希望していた。

9) 助産所に希望すること

助産所に希望することについては、図5のように、「開業制度の存続を希望する」135名、「もっと助産所のPRをして欲しい」98名、「家庭的良さの保持」63名、「後継者の育成」45名となっている。

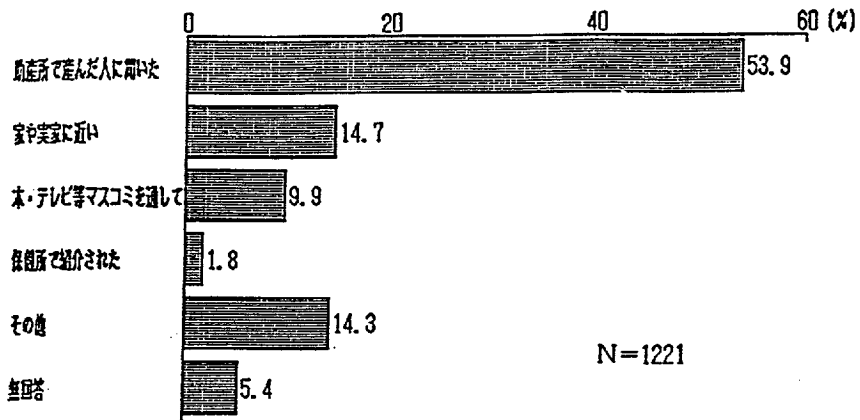
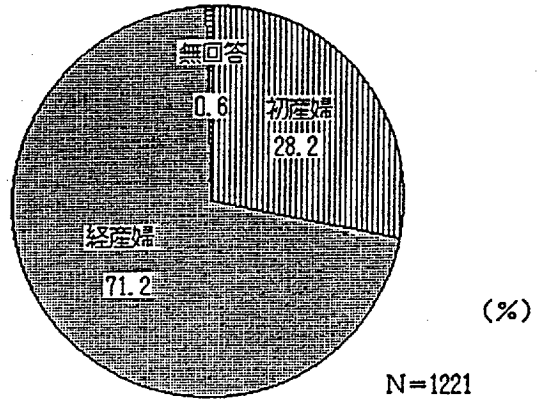
3. 考 察

助産所で分娩を希望する者は、志望動機でみるように自ら主体的に取りくめる自然分娩を志向し、あわせて助産所の家庭的できめ細やかな一貫したケアを受けたがっている。しかし、少数ではあるが会陰切開がイヤ等、やや消極的な理由で助産所

に来るケースもみられた。また、助産所の存在は、助産所出産の体験者から口こみで知ることが多く、もっと助産所のPRを望んでいる。助産所利用の満足度が高いのは、志望動機と結果が、ほぼ一致したためと考えられる。助産所の存続への希望も高く、後継者の育成を心配する声も聞かれた。また、異常時の十分な対応を望み、最新の診断技法としての超音波装置の活用の希望の声も聞かれた。

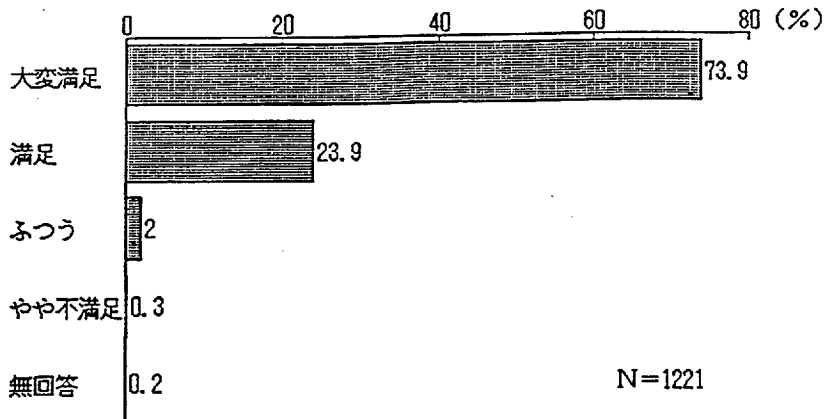
以上の結果から、これからの助産所に求められているものは、新しい診断技法の導入や緊急時の対策を講じる等、「より安全性を保証しながら、妊産婦の主体性や妊産婦の望む自然分娩を尊重し、家庭的な雰囲気の一貫したきめ細やかなサービスを提供していくことである」と考えられる。

発送数	回収数(率)
1802	1221 (67.7%)



(重複回答)

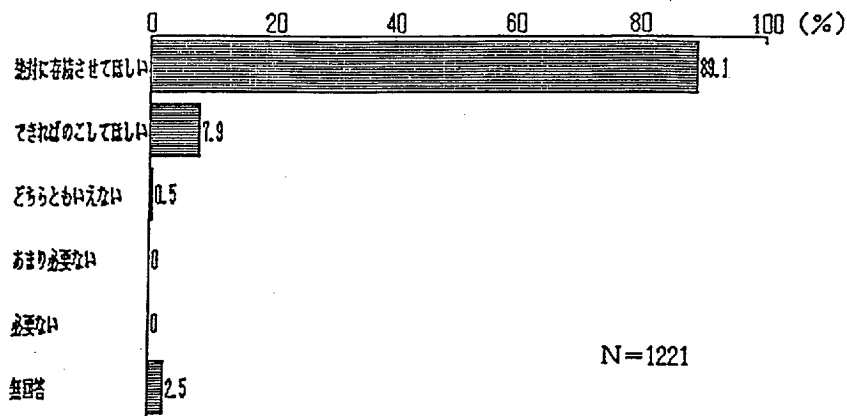
順位	項目	人数
1	自然分娩	215
2	家庭的	116
3	主体的分娩	105
4	夫立会い	80
5	会陰切開がいや	77
6	きめ細かい一貫した指導	54
7	相談しやすい	43
7	熟練したケア	43
9	助産所出産体験者の推め	41
10	病院(診療所)分娩が不満足	39



(重複回答)

順位	項目	人数
1	自然分娩	222
2	主体的分娩	130
3	熟練したケア	126
4	家庭的	85
4	相談しやすい	85
6	会陰切開なし	72
7	きめ細かい一貫した指導	59
8	母乳栄養	40
9	食事内容	26
10	ラマーズ法分娩	25

順位	内容	人数
1	安心して出産できた	106
2	夫が側にいてくれて安心	106
3	自然分娩ができて良かった	98
4	家庭的・暖かさがあった	79
5	助産婦がつきっきりで良かった	45
6	家族が立ち会えて良かった	36
7	きめ細かいお世話	34
8	自分の力で納得できる出産	27
9	母親のような暖かい指導	16
10	信頼できる助産婦	15



(重複回答)

順位	項目	人数
1	開業制度存続	135
2	助産所のPR	98
3	家庭的良さ	63
4	後継者の育成	45
5	医師との連携	37
6	自然出産	34
7	助産所の増加	29
8	母乳栄養	26
9	産む側の身になる	18
10	超音波装置の設置	11
10	緊急時対応のPR	11

6. 実際にお産をされて、どう感じられましたか。

1) 出産体験の満足度はいかがでしたか

- ①大変満足 ②満足 ③ふつう ④やや不満足 ⑤不満足

↓

[※①②の人のみお答えください]

2) 満足の内容について、お答えください (〇はいくつでも可、一番主な理由1つに◎をつけて下さい)

- ①自然分娩ができた ②自分の納得する主体的なお産ができた
③会陰切開を受けなくてすんだ ④なんでも気軽に相談できた
⑤熟練した分娩介助等の技術援助が受けられた ⑥母乳栄養が確立できた ⑦母児同室であった ⑧食事内容がよかった
⑨きめ細かい指導が一貫して受けられた ⑩家庭的であった
⑪ラマーズ法で産めた ⑫面会時間が自由にできた ⑬料金が安かった ⑭その他 ()

↓

[※④⑤の人のみお答え下さい]

3) 不満足の内容を、お書き下さい

- 1)
2)
3)
4)

4) 出産時のご感想があれば、お書き下さい

7. 助産所の今後の存続についてお答え下さい。

- ①絶対に存続させてほしい ②できれば残してほしい
③どちらとも言えない ④あまり必要ない ⑤必要ない

8. 何でも助産所に希望されることを、ご自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

アンケート内容

次の番号のうち、あてはまるものに○印、また()の中には、自由にご記入ください。

1. 年齢、満()才 [平成元年7月1日現在]
2. 1番最近の出産年月日… 昭和・平成 年 月 日
3. 何回目のご出産でしたか。
①はじめて ②2回目 ③3回目 ④それ以上の場合()回

[※ ②～④の人のみお答えください]

1)前回の出産場所をお教えてください

- 1人目…①助産所 ②病院 ③診療所<開業医>
2人目…①助産所 ②病院 ③診療所<開業医>
3人目…①助産所 ②病院 ③診療所<開業医>

4. 助産所を知った動機についてお答え下さい。(主な動機を1つ選んで下さい)
①助産所で産んだ人に聞いた ②家や実家に近い ③本・テレビ等マスコミを通して ④保健所で紹介された ⑤その他()
5. 助産所で出産したいと思われた理由はなんですか。
(○はいくつでも可、なお一番主な理由1つに◎をつけて下さい)

- ①自然分娩がしたい ②家庭的である ③自分の納得する主体的なお産がしたい ④きめ細かい指導が一貫して受けられる ⑤会陰切開がいや
⑥男性の産科医にかかりたくない ⑦夫や家族の立会い分娩がしたい
⑧より熟練した分娩介助等の技術援助が受けられる ⑨何でも相談しやすい ⑩母乳哺育をしたい ⑪母児同室がしたい ⑫食事内容がよい
⑬面会時間が自由 ⑭助産所で出産した人(親・友人など)にすすめられて ⑮ラマーズ法で産みたい ⑯家や実家が近い ⑰料金が安い
⑱病院がいやだから ⑲前回安産であった ⑳前回の病院(診療所)分娩が満足できなかった ㉑その他()

調査 2. 開業助産婦からみた助産婦教育に関する調査

我々のグループは、地域で活動する助産婦に関し種々検討を行っているが、その一端として、助産所（院）での助産婦学生の実習の実態及び開業助産婦の助産婦教育に対する要望等について調査したので報告する。

1. 対象及び調査方法

調査対象は、全国の助産婦学校が実習を依頼している助産所84施設である。あらかじめ全国の助産婦学校79校へ実習助産所の調査を実施し、64校から回答を得た助産所である。調査期間は、平成2年11月5日より同年12月末日までである。調査項目は、助産所における助産婦学生の実習の実態、助産婦学生の印象、助産婦教育に対する要望である。

2. 結果

1) 回収率

回収数55, 回収率は65.5%であった。(表1)

2) 対象の年齢

対象となった開業助産婦の年齢は、表2のように、60代が全体の27.3%を占め、40代50代が約半数を占めていた。平均は60.1才であった。

3) 助産婦開業歴

助産婦の開業歴は、表3のように1~10年が27.3%と最も多く、この中には開業して5年の人が8人含まれている。平均は26.7年であった。

4) 助産所での実習状況

(1) 年間の受入れ学校数と学生数

1助産所が1年間に実習を受入れている助産婦学校の数、最多10校、最少1校、平均1.9校であった。助産婦学校の他にも看護学校や保健婦学校を受入れている所が5カ所あった。1年間に受入れている学生数は、最多79名、最少1名で、平均20名となっている。

(2) 1回の実習受入れ人数と実習日数

助産所で1回に受入れている実習生の人数は、最多55名、最少1名で、2~3名が17施設、31%と最も多かった。実習日数は、2~3日の所が28施設、51%と最も多く、1日見学がこれに続いている。また1泊2日、2泊3日の実習もわずかだがみられた。

(3) 実習内容

助産所実習において、学生に実施させている項目を上位順にみると、表4のように、「沐浴」78.2%、「妊婦健診」69.1%、「褥婦の看護」65.5%、「新生児の看護」63.7%、「産婦の看護」63.6%、「乳房マッサージ」58.2%、「産婦診査」「新生児診査」「褥婦診査」がともに56.4%となっている。

一方見学のみを上位順にみると、「分娩介助」54.5%、「栄養相談」52.7%、「褥婦の退院時の家族計画指導」47.3%、「妊婦の個別指導」45.5%となっている。また実施見学とも行っていない項目として、「更年期の保健指導」49.1%、「思春期の保健指導」43.6%等があった。

助産所の業務として行っていない項目として、「調乳指導」27.3%、「分娩介助」「妊婦訪問」ともに14.6%であった。

(4) 助産婦学生に対する印象

助産所に実習に来た助産婦学生の印象についてみると、表5のようにプラスの印象として、「まじめで意欲的」が12名と最も多く、「助産学等の理論をよく学習している」が7名その他があげられていた。マイナスの印象としては、「意欲、チャレンジ精神が乏しく無気力」が13名、「目的意識、目標が薄い」が6名等であった。

5) 助産婦教育に対する要望

地域で活動している助産婦として、助産婦教育に要望する事項としては表6のとおりであり、「気付きや相手の心が分かり、人間性豊かな教育」12名、「助産婦であることの自信と誇りと責任を持つ教育」11名、「将来開業できるような地域に

根ざす教育」7名等があった。

3. 考 察

今回の調査結果から、助産婦学校の実習を受け入れられている開業助産婦は、50代60代がもっとも多く、従来から言われているように高齢化が認められる。しかし40代の若い助産婦の開業も増えてきていることが指摘される。

一つの助産所が1年間に受入れている助産婦学校の数、多い場合10校で平均2校であった。実習日数は平均2～3日で、見学を1日としている所もあった。しかし開業助産婦の高齢化により閉鎖する助産所もあり、やむを得ず実習を中止している学校が64校中8校にみられた。

次に助産所実習において、学生に実施させている項目についてみると、6割以上の助産所で実施させているものは「新生児の沐浴」「妊婦検診」「産婦、新生児及び褥婦の看護」であった。一方見学のみさせている項目としては「分娩介助」がもっとも多く半数の助産所で行っており、さらに「栄養相談」「褥婦の退院指導時の家族計画指導」「妊婦の個別指導」となっていた。助産所実習において実施か見学かはその実習の時期や期間とも関係していると考えられるが、沐浴や、産婦、新生児、褥婦の看護は、看護学校においても実習してきており安定した看護が提供できるため実施させていると考えられる。一方分娩介助や栄養相談、個別の妊婦相談や家族計画指導などは、直接生命にかかわるということや、知識はあっても対象の個別のニーズに対応することが難しいため見学させていると考える。また助産所の業務として行ってい

ない項目として、分娩介助、妊婦相談があがっているが、これは乳房マッサージ等保健指導を中心に開業している助産所で、分娩は取扱わず多忙のため妊婦訪問も行っていない所である。

助産所に実習に来た助産婦学生の印象については、よい印象として、まじめで意欲的であり、助産学等の理論をよく学習しているなど助産婦をめざす学生の真面目さを高く評価している。しかしその反面、意欲、チャレンジ精神の欠如や目的意識の稀薄、無気力など現代の若者に共通する面もみられる。

次に地域で活動している助産婦として、助産婦教育に要望する事項として、「気付きや相手の心が分かり、人間性豊かな教育」をあげている。これは助産婦としての人間性や人格を大切にしたい教育を望んでいることがうかがえる。また「助産婦であることの自信と誇りと責任をもてる教育」「将来開業できる様な地域に根ざす教育」があげられている。開業助産婦は、法律の許す範囲で独自に妊産褥婦の診察や保健指導を行ったり分娩介助を行うなど自立した活動を行ってきた。このような助産婦の原点ともいえる開業助産婦の役割を若い人達に継承してほしいという気持ちがうかがえる。そのためには、知識や技術面でも責任がもてるものをもたなければならない。さらに助産婦として確かな判断力を養う教育を要望している。これからますます高度化、複雑化していく社会のニーズに的確に対応できる能力を育成していくこと、すなわち助産婦として主体的に活動できる能力を身に付けることを期待していると考えられる。

表 1 . 回収率

発送数	回収数	回収率%
84	55	65.5%

表 2 . 対象の年齢

年齢	人数 (%)
30才代	1 (1.8)
40才代	12 (21.8)
50才代	14 (25.4)
60才代	15 (27.3)
70才代	9 (16.4)
80才代	4 (7.3)
計	55 (100)

表 3 . 助産婦開業歴

年数	人数 (%)
1~10年	15 (27.3)
11~20年	8 (14.6)
21~30年	6 (10.9)
31~40年	11 (20.0)
41~50年	10 (18.2)
51~60年	3 (5.4)
61年~	2 (3.6)
計	55 (100)

表 4. 助産所における実習内容

項 目	実施している		見学のみ		実施・見学共にしていない		実施として実施していない		計		
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	
妊婦健診	38	69.1	10	18.2	4	7.3	3	5.4	55	100	
妊婦の訪問	13	23.6	16	29.1	18	32.7	8	14.6	55	100	
妊婦の個別指導	22	40.0	25	45.5	6	10.9	2	3.6	55	100	
妊婦の集団指導	15	27.3	22	40.0	10	18.2	8	14.5	55	100	
産婦の診査	31	56.4	9	16.4	9	16.4	6	10.9	55	100	
産婦の看護	35	63.6	6	10.9	8	14.6	6	10.9	55	100	
分娩介助	12	21.8	30	54.5	5	9.1	8	14.6	55	100	
褥婦の診査	31	56.4	13	23.6	6	10.9	5	9.1	55	100	
褥婦の看護	36	65.5	9	16.4	7	12.7	3	5.4	55	100	
乳房マッサージ	32	58.2	17	30.9	6	10.9	0	0.	55	100	
新生児の診査	31	56.4	16	29.1	5	9.1	3	5.4	55	100	
新生児の看護	35	63.7	13	23.6	5	9.1	2	3.6	55	100	
沐浴	43	78.2	5	9.1	5	9.1	2	3.6	55	100	
褥退 婦院 の指 導	沐浴	24	43.6	17	30.9	9	16.4	5	9.1	55	100
	育児	20	36.4	22	40.0	8	14.5	5	9.1	55	100
	家族計画	14	25.4	26	47.3	10	18.2	5	9.1	55	100
	褥婦の摂生	19	34.5	23	41.8	8	14.6	5	9.1	55	100
	調乳指導	16	29.1	14	25.4	10	18.2	15	27.3	55	100
新生児訪問	17	30.9	20	36.4	14	25.4	4	7.3	55	100	
乳児健診	23	41.8	20	36.4	7	12.7	5	9.1	55	100	
思春期の保健指導	6	10.9	16	29.1	24	43.6	9	16.4	55	100	
更年期の保健指導	5	9.1	14	25.4	27	49.1	9	16.4	55	100	
栄養相談	11	20.0	29	52.7	11	20.0	4	7.3	55	100	
他施設の見学	19	34.5			36	65.5			55	100	
その他	(1) 育児学級	2	3.6								
	(2) 出産準備教育	1	1.8								
	(3) 初産減早産指導	1	1.8								
	(4) 幼児指導	1	1.8								

表 5. 助産婦学生に対する印象

(重複回答)

プラスの印象	人数
<ul style="list-style-type: none"> • まじめで意欲的。 • 助産学等の理論をよく勉強している。 • 目標を持って勉強している。 • 明るい性格。 • 自然出産の良さを理解している。 • 助産所実習で学ばせたいことをよく掴んでいる。 • 礼儀正しい。 • 研究的な態度がみられる。 • その他 	<p>12</p> <p>7</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>11</p>
マイナスの印象	人数
<ul style="list-style-type: none"> • 意欲、チャレンジ精神が乏しく、無気力。 • 目的意識、目標が薄い。 • 自主性が乏しく、独自性に欠ける。 • 自然出産に対する理解、意気込みが薄い。 • 課題が多く、忙しすぎて疲れている。 • なんとなく違和感、ズレがある。 • 実習時間内はまじめであるが、時間外の意欲は少ない。 • 応用性が育っていない。 • 協調性に欠ける。 • 地域母子保健の理解は少ない。 • 気付きの遅い、あるいは少ない学生が多い。 • 開業に対する希望を持っていない。 • 給与で判断して就職を考えている。 • 大学、短大の学生より専門学校の助産婦学生の方が頑張りがきかない。 • 自信、度胸がない。 • 言葉づかいが悪く、礼儀が乏しい。 • その他 	<p>13</p> <p>6</p> <p>5</p> <p>5</p> <p>4</p> <p>3</p> <p>3</p> <p>3</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>5</p>

表 6. 助産婦教育に対する要望

(重複回答)

• 気付きや相手の心が分かり、人間性豊かな教育。	12
• 助産婦であることの自信と誇りと責任を持てる教育。	11
• 将来、開業できる様な地域に根ざす教育。	7
• 自然分娩や正常妊娠、産褥経過の学習。	7
• 確かな判断力を養う教育。	6
• 卒後教育、生涯学習の重視。	5
• 幅広い型にはめない教育。	5
• 乳房管理、母乳育児の理論と実際の教育を充分して欲しい。	5
• 意欲を喚起し、目的、目標を見失わぬ態度の育成。	3
• ME等、器械に頼りすぎない様な教育。	3
• 助産婦業務の重要性を認識させる教育。	3
• 専門性の追求。	3
• 実習教育期間は1年では短い。	3
• 需要に応ずるため助産婦数の増加対策への配慮。	3
• その他	46

調査2. アンケート

助産婦教育に関するアンケート

I. 次の項目についてご記入ください。

①助産院名 ()

②御氏名 ()

③年 令 () 歳

④開業歴 () 年

⑤年間受け入れ学校数と学校名

学 校 名	年間受け入れ 学生数	1回(期間中)の 受け入れ学生数	1回の学生の 実習日数

II. 実習項目についてお聞きします。

実習項目については、助産婦教育を規定している保健婦、助産婦、看護婦法には特に記載されていませんが、下記項目をあげてみましたので、以下の要領でご記入下さい。

- ・実施させているものには……………○印
- ・見学のみものには……………△印
- ・見学も実施もさせていないものには…×印

尚、見学も実施もさせていないもの、×印については、その理由など、御忌憚のない意見を記入して下さい。

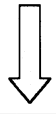
項 目	○△×	×印についての御意見	
① 妊婦健診			
② 妊婦の訪問			
③ 妊婦の個別指導			
④ 妊婦の集団指導			
⑤ 産婦の診査			
⑥ 産婦の看護			
⑦ 分娩介助			
⑧ 褥婦の診査			
⑨ 褥婦の看護			
⑩ 乳房マッサージ			
⑪ 新生児の診査			
⑫ 新生児の看護			
⑬ 沐浴			
⑭ 褥婦の退院指導	・ 沐浴		
	・ 育児		
	・ 家族計画		
	・ 褥婦の摂生		
	・ 調乳指導		
⑮ 新生児訪問			
⑯ 乳児健診			
⑰ 思春期の保健指導			
⑱ 更年期の保健指導			
⑲ 栄養相談			
⑳ 他施設の見学			
その他 (1)			
その他 (2)			

Ⅲ. 最近の助産婦学生に接して感じておられることを
お書き下さい。

Ⅳ. 開業助産婦として現在の助産婦教育に望まれることを
お書き下さい。

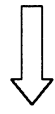
Ⅴ. その他お気づきの点何でもお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



産婦の分娩場所は昭和 40 年代に自宅・助産所から, 病院・診療所へと移行し, 平成元年現在, 病院・診療所分娩は 98.7%を占め, 助産所・自宅分娩は 1.3%にすぎなくなった。しかし, ここ 10 年程前から, ラマーズ法分娩の普及に伴い, 助産所での出産を希望する声が徐々に高まってきている。そこでわれわれは助産所利用者の状況について, 主に利用者のニーズ等の意識面について調査したので, その内容について報告する。

我々のグループは, 地域で活動する助産婦に関し種々検討を行っているが, その一端として, 助産所(院)での助産婦学生の実習の実態及び開業助産婦の助産婦教育に対する要望等について調査したので報告する。